

大正十三年

一月一日 己卯 火曜 晴。

早起。天地地祇を拝し、仏前に朝の修行済で、淑酒、雑煮を祝ふ。吉例の如し。予、李子、井上、岡村、越年の生徒四人と先一月元旦、八十五歳の間一度の障りもなく、元旦の祝、例の如し。本年ハすへて質素を元として、門松、しめかさりも極かんたんにして、御雑煮も元旦一度にして、賀客にも淑酒のみ。李子ハ外の人たちを連て、土神簸川神社に参詣して、智子さまの卯の日の千歳あめを買て帰。

新らしき年明かたのはつ日影拝むころや仏なるらむ

○十七、この明かたの御告に、少し遠方に智恩院の様なる門二所に建つ。門内には銀色の樹木数ありて、門内一はいに植付たるを見る。此度新倉の地所買得するを伺ひて、此御告を得る。

*天地地祇 (天地地祇) *淑酒 (椒酒) *かんたん (簡単) *淑酒 (椒酒)
*簸川神社 (簸川神社) *千歳あめ (千歳飴)

一月二日 庚辰 水曜 晴。

朝の修行すむ。本年ハ二日より常の食事に相成たり。賀客続々きたる。本日ハ中島徳蔵先生御夫婦と万里伯、高橋弘と客にて、晚餐を饗す。欧米の土産物を御目にかける。料理ハ丹羽やにあつらへたるもの。本日、万里すみ子房州よりきたる。

一月三日 辛巳 木曜 晴。

朝の修行済で、来客もあり、大くいそかしく。李子、すみさん連て西下する。夜七時の汽車にて行。朝九時より、予ハ石山氏を連て自動車にて年礼参りする。赤坂離宮、摂政宮、閑院宮、梨本宮、久爾宮、東久爾宮、東伏見宮 御息所拜謁、華頂宮、竹田宮 内親王拜謁、朝香宮、御所 花松典侍様に宮内大臣、加陽宮、御祝詞申上て、午下一時四十分帰。

*久爾宮 (久邇宮) *東久爾宮 (東久邇宮) *宮内大臣 (宮内大臣)

(二月四日、五日、記載ナシ)

一月六日 甲申 日曜 晴。

東宮殿下より、献上もの今日参れと仰られて、予、自動車にて朝九時、御かり離宮に参りて、五年生の画かきし画帖 祥雲帖さけ奉りて退出ス。

*御かり離宮 (御仮離宮)

一月七日 乙酉 月曜 晴。

朝、七草の粥を祝ふ。例の如し。本日、李子関西より九時半帰着。予ハ（以下、記述ナシ）

一月八日 丙戌 火曜 晴。

朝九時、始業式執行。校長、職員、生徒、講堂ニ集る。君か代三唱、勅語拝読、講長の演舌ありて、学校よりむし菓子一同に下さる。無事式済。

*講長（校長） *むし菓子（蒸菓子）

一月九日 丁亥 水曜 晴。

朝九時、業はしまる。

○一八、夢に、月の下に出て、大ききは常よりも大にて、わか直向ふに月に相對したり。

また富士山か極く小さくなりたるを見て、あしき夢かとおもふて語らずに居たり。後、竹氏に此事を咄したるに、わか身上に登りたるを御告になりたると云。

*わか（我） *直向ふ（真向ふ）

一月十日 戊子 木曜 晴。

（コノ日、記事ナシ）

一月十一日 己丑 金曜 晴。

（コノ日、記事ナシ）

（二月十二日～十六日、記載ナシ）

一月十七日 乙未 木曜 曇。寒し。

朝、小林鍾吉氏来りて、今日白子行之処、昨日愈登記出来して、今日より縄張いたし、道も付候ニ付、日延を願ひ度と云ふ。白子郡長はしめ大喜ひにて、地処ニ植物、杉、桐、桜等もすへて寄附いたし度と申事にて、大く人氣ニ而是も如来様御引廻しと、只々感涙にむせひ候。竹内氏、角田栄子も来りて大に咄し候。

一月十八日 丙申 金曜 晴。

例の光明会、午下早々。此日田中氏の講演ありて、みな嬉しく聴聞する。六時過済、おそはを出す。

*そは（蕎麦）

一月十九日 丁酉 土曜 晴。

十二日早々、九段能楽堂ニ行。此日、徳川家達公、松平頼寿伯の御招にて、ルーズブルト未亡人を招かれたり。予、李子と同しく見物する。草子洗、墨田川、小鍛冶にて、六時

済。それより知名の婦人たち、帝国ホテルに集会して、右未亡人の茶話会にて種々咄し合。後、書画の合作等もありて、十一時帰。

*十二日(十二時)

一月二十日 戊戌 日曜 晴。

朝、帝国ホテル滞在のルーズ未亡人に五年生の画を送る。井上八重子使承る。朝十時、自動車にて田中格太郎氏、小林鍾吉氏、迎ひに来りて、予、李子、大木氏、白子村に始めて行。道筋ハ巢鴨より板はし、賑々しきよき道筋也。一筋道にして此間廿五時間也。白子村の尾張やに着、田中格太郎氏兄弟、其外村長、大せいの歓迎にて、寄附の樹木の目録に、先二木の松をはじめ杉苗千本と云、或ハ梅、桜、楓、桐などの沢山にて、何たる嬉しき事なる哉。こゝに昼餐をすまして買得の新天地二行。こゝに憩足所を設けて、茶菓子などにて、東ハあら川、西ハ不二山、南ハ東京、北ハ秩父連山、白嶺、日光見る。四方の眺望佳良なり。それより新座郡新倉の妙典寺参詣して、日蓮聖人の遺跡御開帳をも、和尚の説経もありて、それより帰る。時、午下五時頃也。

*板はし(板橋) *憩足所(憩息所) *あら川(荒川)

一月二十一日 己亥 月曜 晴。

朝十時五十五分より教授する、二時間也。

一月二十二日 庚子 火曜 晴。

朝、池田敬八印刷局長来る。

一月二十三日 辛丑 水曜 晴。風。

朝、大東氏細君来る。正田氏結婚披露会断る。李子出る。

一月二十四日 壬寅 木曜 晴。

朝、さゝ木氏へ行。花真尼え書をよす。

*さゝ木氏(佐々木氏)

一月二十五日 癸卯 金曜 晴。

朝、五年生教する。二時間目、三時間目、十時より。

一月二十六日 甲辰 土曜 晴。

日の光うらゝかに東宮殿下御成婚、けふのよき日にて朝九時、職員、生徒一同、式場に参集して、第一、君か代三唱、畢而、校長、今日の御祝辞、両殿下の御事せき(跡)を演舌して、一同御慶事の唱歌をうたふ。御菓子、紅白、菊花と松竹梅を一同にいたゝかす。

十一時、式全畢。昼餐ハ此日の御祝膳ニ御汁、御なます、御焼もの、赤飯を、今日を始めとす。此廿六日に職員、生徒、女中、下部に至るまで、学校に居る者不残、本日一銭ツ、貯金する。之を一心会と云、永々相続する。一月に一銭也。田中格之介氏、十二時自動車にて迎ひに来る。予、李子と白子に行。村民たち迎に來りて川越や二着。夫より買収地二行。女夫松をを(衍)植る、立机に。御成婚記念、新美の松、大正十三年一月廿六日、跡見女学校、李子揮毫ス。向ふハ古美山、此地ハ新倉といふ。それにて新美の松と名く。四千坪なる麦、人参の畑にて、植松の式あり。村民多勢いにて此義濟、夫より柳下氏夫婦より帰宅ニ立寄てくれとて、自動車をして同氏に行、四時帰。帰途、白子ニ寄て帰。格太郎氏送りくられたり。

*御事せき(御事跡) *立机(立派) *名く(名付く) *此義(此儀)

一月二十七日 乙巳 日曜 晴。

昨夜十二時比より雨後雪になりたり。朝二寸位積りて初雪清く珍らしく。東宮殿下、長子殿下の御成婚もなこの御障りさまもあらせられず、御めて度濟せられて、私一生の願望もとゞきて、神仏に御礼申上る。

日の御子のちよを契りて植そめし新美の松にかゝるしら雪

*御めて度(御目出度)

一月二十八日 丙午 月曜 晴、雪。

教授、時間三時間目、十時五十五分より。夕六時より中島徳蔵先生、大東氏、斎藤菊氏來られて、学校教育ニ付相談会す。習字手本、画の手本、震火災ニて焼失したるに付て、愈勅語とかな御製と究める。画手本もかく事にする。十時済て帰。

*かな(仮名) *究める(極める)

一月二十九日 丁未 火曜 晴。

中村幸子來る。今夜、石川房子來る、一泊。
酒匂藤井瑞枝より、なま干いわし、玉子、蒲鉾着。

一月三十日 戊申 水曜 晴。

朝より來客つゞきにて、中村幸子、三島嘉禰子、万里通雄、富子、六時の汽車にて帰。

一月三十一日 己酉 木曜 晴。

朝、佐々木氏え行て帰。來客、村井薫子、小学兒童の改良服の事ニ付咄しする。
姉小路良子さまより小包物着。

(二月)

二月一日 庚戌 金曜 晴。
朝十時より教授す、十一時四十分迄。 来客、石山基弘、石子。 加藤巖雄氏。 李子、帝国ホテルに谷卯一郎を問ふ。
発信 姉小路さまえ文出ス。

二月二日 辛亥 土曜 雪。
明かたより雪ふり出す。

二月三日 壬子 日曜 晴。
終日、揮毫す。朝十時より、わか学制五十年教育の記念に花園をと御尽力下されたる御陰にて、漸北安達郡なる新倉の地を得たるに付、委員一木氏をはじめ御来構にて、場所、埼玉県北足立郡白子村、面積三千九百三十二坪、買収寄附相成、領収致し候二付、御承知を願ひ(度)御通知申上候也。

*北安達郡(北足立郡) *御来構(御来校)

二月四日 癸丑 月曜 晴。
朝十時五十五分より教授ス。河は為子さま御出にて。

*河は(た)為子さま(河緒為子さま)

二月五日 甲寅 火曜 晴。
万里伯御出にて、夕飯を共にす。
神戸津田より写真とみかん一箱着。

*みかん(蜜柑)

二月六日 乙卯 水曜 晴。
水曜朝(以下記述ナシ)。神戸津田え、大木伸子え書をよす。

二月七日 丙辰 木曜 晴。
朝、さゝ木氏え、湯島眼鏡やえ行て帰。平岩夏子、入学願来る。二木松に哥を添てさゝ木氏え持行く。

*さゝ木氏(佐々木氏) *さゝ木氏(佐々木氏)

二月八日 丁巳 金曜 細雨。
午下、雨晴。十時より教授、十二時済。統一団総務井村日威、玉川由太郎、高橋辰二、島

田惣五郎来りて、統一閣寄附願候。一百円承諾ス。

二月九日 戊午 土曜 陰。

竹内氏来る。笹本上人御重体御病氣ニ付、我々一心に御平諭を祈る。

御平諭(御平癒)

二月十日 己未 日曜 雨。

朝十時より二郎を連れて三島氏へ行、光明会修行ス。四時過より帰。終日の雨なり。

二月十一日 庚申 月曜 陰。

雨細々、午下晴たり。有約、予、李子と中島徳蔵氏より招かれ、午下二時より出かける。

御相客、みな博士の御夫人たちにて、先薄茶の御手前中にて、外の御席にて茶菓種々、御咄しの内に李子の旅行談にて一同面白く、御すもし御弁当、御にはにて。六時比皆帰。太田早苗、嘉子を連れてきたる、雨宮も。

御には(御庭)

二月十二日 辛酉 火曜 雨。

朝十一時比、新田おかす来る。午早々より、予、李子と森氏の招待にて麻布南座に行、六時済て帰。夜の分、雨宮と竹え。白子村地所寄附者え絹本横物、彩色にて若松に哥を添て主事大束氏をはじめ六名の方え此画を贈る。大束氏請持ツ。

二月十三日 壬戌 水曜 陰。

終日、揮毫ものす。夜、竹内氏来る。

二月十四日 癸亥 木曜 晴。寒甚。

先、今日を最大寒気といふへし。

二月十五日 甲子 金曜 晴。

朝より五年生教授する。午下、揮毫ものす。わした静子来る。竹内夫婦来る。笹本上人の御容体、先々こちらものとおもはれる位也とて、上人は歓天喜地と仰せられたりと云。

わした静子(鷺田静子)

二月十六日 乙丑 土曜 晴。

終日、揮毫ものす。

二月十七日 丙寅 日曜 晴。

朝より揮毫ものス。午下、有栖川宮侍女美尾の順来る。竹内氏より笹本上人の御病状日々報告、今日ハまたよほと御快方にて、夜具、及御召物すへて御着替に相成て、けふハわかからだの様に成りれりとして御悦ひのよし承る。

*美尾の順(美尾野順) *けふ(今日) *わかからだ(我からだ) *成りれり(成りたり)

二月十八日 丁卯 月曜 晴。

朝より昼後三十分迄教授する。御宝前の飾万端とゝのへて今日の光明会をまちたり。二時より会員集る、竹内夫婦。田中先生の御講話結構也。

二月十九日 戊辰 火曜 陰。

朝より揮毫ものス。

二月二十日 己巳 水曜 晴。

午下三時頃より鳥尾子を問ふて、夕餐をたふへて帰。帰途、月尤清。此夜、竹内夫婦きたる。

【凶入る】 月食十二時十分、庭に出て、二日月の如くてあつた。此夜ハ雲もなく、うつくしき空であつた。皆蝕と云か、それを見づに寐につく。此夜十時頃、春日

町火あり。

発信 信州大宮さま、相州佐藤貞子、神戸多田重子え。

*たふへて(食べて)

二月二十一日 庚午 木曜 晴。

朝、新聞に、西村政子十日に死去のよしをかゝけてあつたと云に、李子、早速に西村氏え弔詞に行く。昼後、ゆたかより電報、夜八時四十五分東京駅着。泰夫婦、十時過着。三年目に帰朝したる。至て体もすこやかにて、すへて無事を悦ひ、何くれと咄しに、十二時就眠。

発信 大東氏え手本小包出す。

*ゆたか(泰)

二月二十二日 辛未 金曜 陰。 予記 万里小路博房殿四十年祭、琴平神社社宅にて、午下二時より。

皇太子殿下、良子殿下御西下御発輦二付、本日より御無事の御祈禱申上る。金曜の教授、正午迄。長尾収一氏、いく子の診★(目+察)を頼む。昼餐を共にす。予、李子、智子、自動車にて琴平社宅にて万里小路博房殿四十年御年祭二付、二時より参詣する。八時帰。泰、寿子、高田馬場の津田氏え行。

*診★(目十察)(診察)

二月二十三日 壬申 土曜 細雨。
本日より新入生の試験はしまる。
発信 神戸多田氏え、河はた氏え。

*河はた氏(河鱒氏)

二月二十四日 癸酉 日曜 晴。

午下早々、高橋夫婦と健児来る。横浜石川細君、星野鶴子と其兄夫婦 帰朝の御札に、角田不
二男、北岡信子、竹内氏十人の来客。河鱒氏より本箱着。

二月二十五日 甲戌 月曜 晴。

朝、岩田氏美濃より着。いく子の病気診★(目十察)して病ハよし。案しる事ないと云。
又(以下、記述ナシ)。来客、神翁きく子。

発信 神戸津田え岩田氏明日着の電報うつ。

*診★(目十察)(診察)

二月二十六日 乙亥 火曜 晴。

午下早々より伝馬町興円寺にて、野田操五十日法要相営まれ、唯信会よりの施主にて読経
はしまり、後、寺院主の説教ありて、予の替りに李子講演有て後、御茶菓にて帰。六時比
也。

二月二十七日 丙子 水曜 晴。

此日午下早々、竹田宮え参殿。時、事務官に逢て伝教大師御絵典御詞書を昌子内親子殿下
に願上たる二付、やはり事務官たちより御中間え御相談にならねばと云事二付、御絵典巻
もの三巻共、御殿ニ御預ケ申上たり。それより北白川宮え参殿して、妃殿下、竹田宮妃殿
下にも拝謁、種々御咄し申上て帰る。四時過也。

受信 山口県藤村氏より書と青のり着。

*御絵典(御絵伝)

*昌子内親子(昌子内親王)

*御絵典(御絵伝)

*青のり

(青海苔)

二月二十八日 丁丑 木曜 晴。

朝より高橋ひて子の初節句二付、五人はやし、太田嘉子、市松人形を祝ふ。また新田正子
の縁談究りたるに二(衍)付、小柳堅縞の綿入と羽二重更紗帯、硯箱、書翰箋を祝ふ。

*究りたる(極りたる)

(二月二十九日、記載ナシ)

(三月)

三月一日 己卯 土曜 晴。

発信 山口県藤村え、神戸多田え。

三月二日 庚辰 日曜 晴。

田中光頭伯小伝青山余影一本、故渡辺千秋歌集一本、贈らる。竹内来る。

三月三日 辛巳 月曜 晴。

五年一組教授、十二時分(ママ)迄。来客、箕作長江、其妹三浦静子。
発信 静岡熊沢一衛え、高輪渡辺昭え。

三月四日 壬午 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

三月五日 癸未 水曜 晴。

朝、九条家より信濃小路猛太郎御使 姫様御成婚ニ付、御屏風御たのみ事、香川はつ音 其妹と、嘉山
梅子、竹内氏も。光重病氣、熱も九十度以上にて大に心配する。

三月六日 甲申 木曜 晴。

朝、佐々木氏を訪ふ。朝、竹内氏来る。

三月七日 乙酉 金曜 晴、風。

朝十時より五年生画にかゝる。竹内細君、田村長子使来る。

三月八日 丙戌 土曜 晴。

午下一時より五年生画にかゝる、三時迄。今朝、光重も熱度々下りてきけんよし。

三月九日 丁亥 日曜

此日朝九時より五年生画を見る、午下四時迄。

(三月十日、十一日、記載ナシ)

三月十二日 庚寅 水曜 晴。
此日も同じく画にかゝる。午下、鳥尾子え行、夜に入て帰る。

三月十三日 辛卯 木曜 雨。
此日、いく子、小此木病院に入院する、看護婦も。井深氏附添ふて行。

三月十四日 壬辰 金曜 晴。
日々、五年作製の画にかゝる。いく子、中耳炎の手術をする。大滝博士、井上医士、井深氏も立合たり。先々無事手術畢る。此日、下婢もと解雇する。

三月十五日 癸巳 土曜 晴。
(コノ日、記事ナシ)

三月十六日 甲午 日曜 晴。
此日も終日も(衍)画にかゝる。

三月十七日 乙未 月曜 晴。
此日、生徒の制作画に筆入畢る。華頂宮、御いたわしき御容体を承はる。

三月十八日 丙申 火曜 晴。
いく子、治療後も経過よろしくて、先々安心々々。本日ハ光明会、午下三時と云。二時比より続々御集りにて、われ道師にて念仏三昧を修す。田中徹学士、三時御来臨にて講話を聴聞す。後、念仏三昧にて畢。例の茶菓、おそばにて、七時退散。迹(後)に竹内氏居残りておはなしにて、十時過帰。下婢もと、此日来る。

*道師(導師)

三月十九日 丁酉 水曜 晴。
此日より新築居間移る。今暁、いく子また熱度九分迄上ると云電話にて、のり(憲)重病院に行く。鳥尾子え行、夜に入て帰。
満月を拝む。

三月二十日 戊戌 木曜 晴。
華頂宮博恵殿下薨居。十九日午後六時全く御危篤のよし伺ひて、此哀しみいかにせん。九条敝子姫さまの御残念さ何にたとへんと、只々御さつし申上て涙のみ也。此朝、さゝ(佐々)木氏を問ふて帰。李子ハ小木の木病院え出向る。

*小木の木病院(小此木病院)

*九条敏子姫さま (九条敏子姫さま) *さゝ木氏 (佐々木氏)

三月二十一日 己亥 金曜 晴。
(コノ日、記事ナシ)

三月二十二日 庚子 土曜 晴。夜、雨ふる。

朝九時より九条様え御見舞に参る。恵子様御不在にて、御家来に逢て御弔詞申上て帰。

三月二十三日 辛丑 日曜 晴。夜、雨ふる、有かたし。

終日、揮毫ものす。此夜、寄宿生送別会。廿二日の夜、生徒一同送別会執行。病院に二木博士を乞ていく子の病状診★(卍十察)を願ふ処、外にいつれもあしき処なく、耳より来る熱にて、是も追々に下りよくなると云事にて、先々安堵いたし候。

*診★(卍十察) (診察)

三月二十四日 壬寅 月曜 晴。

朝九時より式場に於て、校長、職員、生徒、集りて終業式執行畢。皆勤賞十人前、金地色紙歌をかく。

三月二十五日 癸卯 火曜 晴。 予記 卒業式執行。

朝より準備成て、午後一時より校長はしめ、職員、生徒、父兄方も式場に集り、初、国歌、教育勅語、校歌、卒業(証書)授与、畢而校長演舌、来賓井上鉄治郎博士祝辞演舌ありて、唱歌にて式全畢。来賓、茶菓、洋食等にて歓迎ス。三時過畢。

三月二十六日 甲辰 水曜 雨。

午下十一時より習字教室にて、謝恩会始り、食事、茶菓、洋食一品、先生方之演舌もあり、五年卒業生より一々謝恩の辞ありて、二時比済。本年ハ震災後にて学芸事、其外何もなく、是にてめて度済。

竹内氏来る。

*めて度 (目出度)

三月二十七日 乙巳 木曜 晴。 予記 午後一時半より牛込常楽寺にて地明会。

朝、さゝ木氏を問ふて帰。光明皇后、大正十五年にて一千五百五十年に相当すると云。新地なる新美の地所に光明皇后の石像を安置する事、今より其準備にいそしみます。

*さゝ木氏 (佐々木氏) *新美 (新倉)

三月二十八日 丙午 金曜 晴。寒甚。

午下、雪ふり出したり。寒甚し。竹内氏夫婦来る。

三月二十九日 丁未 土曜 晴。

朝、厚氷を結ぶ。此日、神戸石川房子、子供四人と里の実母、横浜より迎ひの人石川沢吉、外に男老人と、神戸引上来着す。

三月三十日 戊申 日曜 晴。

葉室様御紹介、房州人山田はる、下婢目見に来る。

(三月三十一日、記載ナシ)

(四月)

四月一日 庚戌 火曜 晴。

午下一時半、北白川宮御一年祭二付、豊島岡御墓前祭に参拝して帰。

四月二日 辛亥 水曜 雨。

午下、川ばた子え行而帰。神戸神代氏え電報を打ッ、郁之進病氣と聞たるに付て也。早速返しを(以下、記述ナシ)。

*川ばた(河鱒)

四月三日 壬子 木曜 晴。

神武天皇祭。此朝、神代より返報、御出をまつと云。それより関西行準備する。

四月四日 癸丑 金曜 晴。

夜汽車にて、予、李子、井上八重子の三人連にて、神戸に行。

四月五日 甲寅 土曜 晴。

朝十時廿分、三ノ宮着。津田弘視、自動車にて迎へられる。真交会員、橋本、池田、小西、其外も津田氏え行、一やすみにて、津田の家も立派、文明に的したる家にて結構々々。また自動車にて神代え行、一泊。

*的したる(適したる)

四月六日 乙卯 日曜 陰。后、雨。予記 旧三月三日にて節句也。

津田氏の招にて、宝屋に行。長崎料理にて珍の珍なるものにて、昼餐を饗せられる。校書

三人も来りて、常盤津まさ子、小浜、浜きく、手躍もありて、久々面白し。

津田鶴子、橋本艶子、池田、小西玉子より、あし辺躍を見に行。豊とみ聚楽第、醍醐の花見、全盛を究めたる、奇麗々々。

午下二時頃より雨にて困難。

*常盤津まさ子(常磐まさ子) *あし辺躍(蘆辺躍) *豊とみ聚楽第(豊臣聚楽第)

四月七日 丙辰 月曜 晴。

四時頃より真交会を雲雀ヶ丘倶楽部に集る。会するもの三十人計にて賑はしく、予八八年ふりにて会員に逢て、昔しかたりに。

真交会招待日にて天気よく、電車、四方の風色、実に今を盛況と云。雲雀ヶ丘に会員まち設けられて、昔語りに昼餐を饗せられる。此山の上に成金の住宅、あつと計に美を究めたる家造り沢山ある。其中に杉山氏の宅に行、眺望殊に妙々、此処にて一同撮影する。五時退散。道すから宝塚え行、見物する。夜に入て帰。

*雲雀ヶ丘倶楽部(雲雀ヶ丘倶楽部)

四月八日 丁巳 火曜 晴。

神代氏、長々滞在して、けふを誂別して、津田氏其外大せい送りの人たち賑々し。三の宮より無事汽車人となる。京都着、高島やによりて種々買物する。自動車にて姉小路さまを久々に伺ひ、御機嫌のよろしきに先々大悦、此時高倉典侍さまも御出にて、久々御咄し申上て、それより京都駅に着。夜九時十五分にて汽車人となる。

*けふ(今日) *高島や(高島屋)

四月九日 戊午 水曜 晴。

朝、かん原辺にて日の出、実に有かたく拝みたり。十時何分に東京駅に着。泰夫婦、其外大せい迎ひ来りて、自動車にて無事帰着。

*かん原(蒲原)

四月十日 己未 木曜 晴。

朝八時より職員、新入生、及父兄の集りにて、講堂にて入学の式あり。講長の演舌、主事、学監のもアリて、全畢。

*講長(校長)

四月十一日 庚申 金曜 晴。

朝八時より始業式、新旧生徒の初対面の式、畢りて校長よりの演舌ありて、主事も。斎藤氏、度量計のメイトルの講話ありて、先々相済。

竹内氏来る。

四月十二日 辛酉 土曜 陰。
朝よりしらへものにていそかし。

四月十三日 壬戌 日曜 雨。
雨にて三島子行やめる。

四月十四日 癸亥 月曜 晴。

朝より授業、十二時五分迄。桜ヶ岡賀茂氏の招に応して、予、李子同行、さくらは満開。

見ぬ人に伝へてましを花くはしさくらか岡の春の夕くれ

桜さく岡のあるしにまねかれてこゝろの花も香にあふれつゝ

四月十五日 甲子 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

四月十六日 乙丑 水曜 雨。大雨中、終日ふりつゝく。

此日、河はた子え行て帰。四谷信濃町慶応病院え、との三十六号、太田嘉子の病氣問ふ。熱度四十度上にて十日間位も其通りにて、心配いたし候。親夫婦共付居りて容体をみる処、血色もよし、快方にも迎ふへくと存、御おやに祈願を籠て怠りなく候。沼津御用邸正親町様より鯖七尾着。

*河はた子 (河鱸子) *御おや (ミオヤ)

四月十七日 丙寅 木曜 晴。

宮内省より御使にて、皇后様より御色紙に養蚕御題にて、和歌詠進可致様との花松典侍御書にて承る。直に拝承の御返事申上る。太田早苗より端書にて、嘉子容体、昨夜になりて九度四分、今朝八度七分降り、就眠いたし、食欲も出て参りたるよし申来りて、わか嬉しさいはん方なし。佐々木氏え行て帰。

*わか嬉しさ (我嬉しさ)

四月十八日 丁卯 金曜 晴。

朝より御仏前の準備にて、午下三時より会員御集りにて御念三昧、四時、田中氏御出にて御講話始り、六時畢、退散。跡に田中氏、竹内氏残りて御讚歎、十一時帰。

*御念三昧 (御念仏三昧) *跡に (後に)

四月十九日 戊辰 土曜 晴。

万里小路麟雄さまより筭二拾本着。

四月二十日 己巳 日曜 晴。

正午早々、高輪竹田宮様え参り、御絵奠の御染筆願上る。此時御出ましの処にて早々にて、毛利安子さまを伺ひて久々御面晤、大く御悦にて御逢のもの戴て帰。

*御絵奠(御絵伝)

四月二十一日 庚午 月曜 晴。

朝より教授、十二時五分迄。静子、愈酒井様御暇申上て帰。荷物等北海道え送る。大さわき也。

四月二十二日 辛未 火曜 晴。予記 午下一時半より地明会。

午下一時より震災後普請出来、地明会に行。

四月二十三日 壬申 水曜 晴。

午下二時頃より鳥尾氏え行て帰。

四月二十四日 癸酉 木曜 晴。

万里小路通義と鷺田静子の結納取組、めて度済。午後六時より伝通院前階(借)楽園二行、酒井伯御招待により。通義と静子、酒井伯の御招待にて、堀田正恒、伴子さま、予と李子と支那食事にて。

愛知県三浦七左衛門え、名古屋や石田宮三郎え、大阪今宮美尾野順子え、大坂南区上ノ宮町居田園吉え、静岡焼津松村為吉。

*めて度(目出度) *名古屋(名古屋)

四月二十五日 甲戌 金曜 陰。

此夜、堀田伴子さま、葉室春子、酒井喜美子さま、万里菜女、御出にて、静子の式の着類其外、方々よりの御悦品等を御目にかける。九時過、みな御帰りに相成たり。

四月二十六日 乙亥 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

四月二十七日 丙子 日曜

万里小路通義、鷺田静子と、本日琴比羅神社にて結婚式を挙る事。李子、私、出張、目出度神前にて三三九度杯も済て、鳥居前にて一同写真撮影ス。帰宅してわか(我)宅にて晚餐会を催す。姉小路伯、万里芳房、万里通敏、裏松夫婦、媒酌人泰夫婦、鈴木峰江、新

郎新婦、松本栄、此会食も済て、新夫婦もわか宅にて一泊。

*わか宅（我宅）

四月二十八日 丁丑 月曜 晴。

新郎新婦、自動車にて親戚兄弟不残え披露に行。

四月二十九日 戊寅 火曜 晴。 予記 鷺田夫婦、北海道出立之事。

朝より任地行荷物の拵にて大困雑、上野夜十時之出發にて、見送りの人々の大せいにて、実にく目出度限りにこそ。

四月三十日 己卯 水曜

夢に東伏見宮依仁親王殿下を見る。

（五月）

五月一日 庚辰 木曜 予記 愛国婦人会出席、華族会館え。欠席。

此朝より依仁親王殿下御霊を祭る。

（五月二日、記載ナシ）

五月三日 壬午 土曜

三条公より訃音来る。実憲儀、久々病氣之処、養生不相叶、五月卒去。来ル五日、青山斎場に於て告別式執行。

此朝、津田弘視来る。朝飯を呼はれて、はなしもいたし（度）とて、外日来るひ間かなきとて会食す。ゆるく咄して帰。

*ひ間（暇）

五月四日 癸未 日曜 陰。

午下早々、三条公え弔詞申上る。公輝様に御目にかゝりて、御跡御相続之事を伺候処、私公輝相続之事ニ治定なると仰せられて、大ゐに安心々々致し候。御棺前参拝、御暇乞して帰。閑院宮様え参りて、宮様、御息所様、春仁王様、華宮様にも拝謁して、種々御咄し申上て帰。李子病氣いたみ甚しく、井深氏も漸日暮に来て診●（十十察）する。胃腸神経痛と云。夜もいたみ通したり。

*診●（十十察）（診察）

五月五日 甲申 月曜 陰。

朝より正午過迄教授ス。来客、白須賀跡見豊氏。李子、胃腸のいたみにて臥。此夜、竹内氏来る。

神戸真交会より写真着。

五月六日 乙酉 火曜 晴。

来客、大村梅子さま、小早川式子さま、小林嘉代。発信 神戸多田え、片瀬佐藤貞子え。

五月七日 丙戌 水曜 晴。

午下、鳥尾子え行て帰。

五月八日 丁亥 木曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(五月九日、記載ナシ)

五月十日 己丑 土曜 晴。予記 上野精養軒にて、わか交友大会。

日本晴と云上々天気。午下二時(以下、記述ナシ)。

*わか交友大会(我交友大会)

五月十一日 庚寅 日曜 晴。予記 わか学校にて小桜会に貸ス事。

朝より智子さま連て、三島光明会に参詣する。念仏三昧修行する。後藤信孝氏来られて実見なる講話ありて結構々々。四時帰。夜七時より宮城氏音楽会行。予、井上、賀茂勝子を連て行。報知新聞六階上にて、十一時帰。

*わか学(我学校)校

五月十二日 辛卯 月曜 晴。

朝より教授、正午過迄。旧四月九日、わか誕生日ニ付、昼祝膳にて晚餐ニ家内一同を集めて会食する。竹内来る。

*わか誕生日(我誕生日)

五月十三日 壬辰 火曜 晴。

朝十時の約速にて、竹内氏をまつ。神田齒医師行の事。竹内氏の案内にて、駿ヶ台甲賀町

なる大久保潜竜氏に行、齒を形をとりて帰。此時、わか齒のよきを見て、齡百三十歳を得ると云、是迄のけいけん上にて分ると云はれたり。それより淡路町筆工得応齋に行、筆を速めて帰。

発信 京都姉小路さま、朝鮮今村氏え、神戸多田氏え、福岡県船越準作え。

*約速(約束) *わか齒(我齒) *けいけん(経験)

五月十四日 癸巳 水曜 晴。夜、雨ふる。

朝十時頃より河はた子え行、午餐を呼れて、為子さまと同道にて鳥尾子を訪て、五時帰。大谷光演師より招待状着。

竹内氏来。

*河はた子(河鱒子)

五月十五日 甲午 木曜 雨。

御宝前清めて読経する。東伏見宮依仁親王殿下、結願。

五月十六日 乙未 金曜 予記 愛国婦人会、正午迄に華族会館え。

午前十一時より華族会館二行、愛国婦人総会后、総裁殿下よりの午餐会にて、総裁妃殿下、竹田妃殿下、梨本妃、北白川妃殿下、加陽宮妃殿下、李王殿下、妃殿下も御出席也。

五月十七日 丙申 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

五月十八日 丁酉 日曜 晴。 予記 午下五時、帝国ホテル、大谷光暢、智子女王の結婚披露会招待。

午下二時より光明会執行。田中木又君講話ありて、予、四時半より帝国ほてるに行。始、典山の講談、次ニ伊十郎一派の長唄新浦島、次ニ食堂開かる。此会也、東京の御親戚、其外特別の方のみなり。八時畢而帰。月清し、昼の如し。

*帝国ほてる(帝国ホテル)

五月十九日 戊戌 月曜 予記 午下十二時半迄、女子学習院礼法教室え。

朝の教授すまして、十二時より、予、李子と同車にて、女子学習院礼法教室に行。客ハ印度支那総督メルラン氏妻、外に一婦人招待、打くつろきたる日本風の昼餐、床には一幅対、立花すはまに松を立て、御取肴二台、御膳も五ノ膳と云、極々鄭重なるむかしの婚礼様のもの也。生徒の琴曲ありて、後、書画帖二本に各々画及書、名々の名前をかきしるしたり。別に茶席にて点茶一服して、講堂など拝見して、四時過帰。

*すはま(州浜) *名々(銘々)

五月二十日 己亥 火曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

五月二十一日 庚子 水曜 雨。

午下、鳥尾子え行て帰。

五月二十二日 辛丑 木曜 晴。

この夜、甘利氏はしめて来る、竹内夫婦も。

五月二十三日 壬寅 金曜 予記 上野公園竹の台陳列館ニテ、光風会。

朝九時より上野竹の台陳列館光風会ニ行。此時、泰も来りて洋画を見る。画風も大めに改造といふか、とてもわか眼にはかんしられぬ。やはり山本、南、三宅、中沢氏、古き貌ぶれのか先々すぐれたるやに覚ゆ。叮嚀に見たり。外にゼガンチニイ、ゴーギヤンの欧州美術家の作品も陳列ありて感したり。

*わか眼(我眼) *かんしられぬ(感じられぬ)

五月二十四日 癸卯 土曜 予記 東伏見宮妃殿下より、午後二時、新宿御苑参集の事。

愛国婦人会、午下六時四十五分、大谷様御出発、不参する。

朝陰、正午前驟雨ありて直に晴。余、李子と同じく新宿御苑に参る。やかて総裁東伏見宮妃殿下成らせられて、会長はしめ一同拝謁之上、御苑散歩。さしにも広大なる緑樹、森々たる若葉の色芳はし。紅葉など空の青きに英して、今を尤好気色也。御茶やに御休憩にて、御食事御培食仰付られて、実に結構々々。今日の光明世界にて、四時全済て帰。此日、天の御加護にて、照もせず薄晴にて、散歩には極妙々也。

*英して(映して) *御培食(御陪食)

(五月二十五日、記載ナシ)

五月二十六日 乙巳 月曜 晴。 予記 \地明会、一時半より。

朝の教授して、午下二時より、予、李子と同自動車にて、竹田宮拝借(謁)の米国大使ウツミ、此度辞職して帰米に付、其母なる八十歳の老人を慰勞のため、本野久子、下田歌子、予、李子、旭山、外何々の夫人等より、能楽喜田六平太、宝生進の鉢木を演したり。予も仕舞高砂を舞ふ。五時過済て帰。

*旭山(鳩山) *喜田六平太(喜多六平太) *宝生進(宝生新)

五月二十七日 丙午 火曜 予記 わか(我)校遠足会、一ノ宮行。

午下一時より小石川植物園議事堂にて、小石川区教育会長嘉納治五郎氏より、多年教育ニ
尽悴セラレ、其効績特ニ顕著ナリト認メ、仍テ本会表彰規程ニより、別紙目録ノ花瓶一個
ヲ贈呈セラレタリ。予、之を拝受して帰。午下四時より、予、智子さまをつれて葉室伯を
問ふ。万里小路通房伯、御病氣全快ニ付、御帰房之御暇乞、及御誕生日ニ付、参りて御親
戚みな御寄合也。九時比帰。わか校遠足、一ッ宮にて地曳綱にて大々的なるひら目、赤エ、
蟹などもたせきたるニ付、直ニいり付て、御来客饗応に出されたり。

* 尽悴(尽瘁) * わか校(我校) * 一ッ宮(一ノ宮) * ひら目(平目) *
赤エ(赤鱈)

五月二十八日 丁未 水曜 予記 午後六時、帝国ホテル、稲垣長悟郎、太田照代、結
婚披露。

朝九時、齒医師大久保氏へ行、二。午下六時より、予、李子と同しく帝国ホテル、稲垣長
悟郎、太田照代の結婚式に出席して帰。

五月二十九日 戊申 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

五月三十日 己酉 金曜 晴。

朝、大東主事、満洲より帰朝ス。高田馬場より泰来ル。

五月三十一日 庚戌 土曜 予記 齒科大久保行、朝九時。

朝九時より大久保氏行、齒の療治する、三度。

発信 土井早苗え茶の御礼、木津跡見法専えそら豆の御礼。

(六月)

六月一日 辛亥 日曜 晴。

午後七時より、予、李子、井上八重子と同しく報知新聞社にて、宮城氏の音楽会に行。落
葉の踊、紅薔薇、せきれい、春の雨、蜂、舞踊曲、秋の調、薤露調にて、跡一曲を残して
帰。

稲垣長語郎新夫婦、御礼に来る。

* 跡(後) * 稲垣長語郎(稲垣長悟郎)

六月二日 壬子 月曜

朝より教授する。

六月三日 癸丑 火曜 晴。

朝十一時比、門野氏自動車にて迎ひ来る。予、李子と同車にて、駒沢村門野鍾八郎氏宅にて、若松会々社幹事、玉子、松平岳子、鳥尾子、赤松男等十五、六人にて、庭も広く家も立派にて、余興梅若悴、其外も仕舞ありて、庭の花摘などにて、田舎の気分面白くして、四時半比、又自動にて送られたり。

予記 駒沢門野鍾八郎、若松会、十時比。

*門野鍾八郎氏(門野鍾八郎氏) *自動(自動車)

六月四日 甲寅 水曜 陰。 予記 大久保行、四度。

陰から晴になりたり。午下三時頃より鳥尾子え行、七時帰。此時、雨ふり出したり。

六月五日 乙卯 木曜 陰。 予記 午前九時三十分迄に参る事。

本日、皇太子殿下、妃殿下ノ行啓ヲ仰キ奉リ、御結婚奉祝会ヲ宮城二重橋前に挙行ニ付、参列之事。東京市長永田秀次郎より。此日、参列のつもりゆゑ、参列人の一人共、何千人とも云のて、もても女老人てはきけんと存して参列をやめました。朝より空もくもりて、今にも雨かと思ふやうなる空也。李子は花売日にて大せいをつれて、銀座辺に朝七時より出かけた。学校休業、奉祝会。夜、甘利氏来る。

*もても(とてても) *きけん(危険)

六月六日 丙辰 金曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

六月七日 丁巳 土曜 予記 大久保行、五度。

朝八時より大久保氏え行。四(五)度。

六月八日 戊午 日曜 雨、後晴。 予記 日曜、東京美術学校講堂ニテ挙行。午前十時過に男穂積陳重より。三島氏、光明会。

午前十時より、予、李子、智子、井上、岡村、五人、自動車にて行。本日、笹本上人御病後始而御出席にて、御坐談の御はなし等も有之候而四時畢而帰。

六月九日 己未 月曜 晴。

朝より教授、昼過まで。来客、山根あや子。

六月十日 庚申 火曜 陰。 予記 六度、大久保行。

朝より大久保氏行て帰、五(六)度。来客、中村幸子、松花会招待之為来る。本日は竹

内夫婦を五島善子、無理に連而来りたる日にて、是より仏門に入る紹介日にて、此日を紀念して竹内喜太郎氏夫婦を迎へ、それに井上八重子の病気の為、か様な因縁と相成たるに付、井上氏と三人をまねきて晚餐会と御念仏三昧を修す。

藤井瑞枝より鯛佃煮着。鷺田すゝより書至。有栖川宮のみをの順よりせるの単もの着。

*みをの順(美尾野順) *せる(セル)

六月十一日 辛酉 水曜 陰。
午下、鳥尾氏え行て帰。

六月十二日 壬戌 木曜 陰。 予記 \ 午下一時半より地明会。
朝、佐々木氏え行而帰。

六月十三日 癸亥 金曜
朝、大久保氏え行、帰、六(七)度。午下一時より松花会、九段安田氏え行。会員皆集、大勢也。余興、横浜の多沢氏演舌、幼児より一言もものいへぬ病にて、九才比、十歳、十二歳、三度自殺くわてたれと、はたさすして、自分て研究に研究して、終に動物、虫などの真理を究めて、自由自在、動物の声を真似たり。感に堪たり。外に長唄ハ人連にてよく演したり。食堂も賑々しくて皆々興に入り、七時帰。小雨あり、直二止。
六度
予記 松花会。大久保氏行。

六月十四日 甲子 土曜 晴。
朝より揮毫ものス、終日迄。来客、児玉糸子。

六月十五日 乙丑 日曜 晴。
朝、大久保氏え行、七(八)度。先生不在にて新田え行、お数病氣見舞て帰。
七度。

発信 美尾野え書をよす。

六月十六日 丙寅 月曜 陰。
朝の教授済て、午下、
十八日の記事。光明会、例の如く会員集る。田中学士之御講演、結構々々。六時頃、雨ふり出したり。来客、美尾野順。小野木病院の井上庸三氏来る。

*小野木病院(小此木病院)

六月十七日 丁卯 火曜 晴。 予記 午前十時より善光寺婦人会。

午下、善光寺春季夫人会二行。

*善光寺春季夫人会 (善光寺春季婦人会)

六月十八日 戊辰 水曜 陰。
光明会、執行す。

六月十九日 己巳 木曜 晴。

朝より大久保氏え行、齒を入ル、八(九)度。

六月二十日 庚午 金曜 晴。 予記 午下四時半、帝国ホニル、大木仲子、徳川喜福と結婚披露会。

朝、堀田伯訪問、正恒様に会談、廿五日、不老(会)御出之趣、御承諾に相成たり。帰途、福田全子を訪ふて帰。四時過より、余、李子、門馬と自動車にて帝国ホテルに行、大木仲子と徳川喜福と結婚披露会て余興、能舞台も出来、梅若一流の鶴亀、石橋、仕舞もありて、食堂も先千人の客ともおもはれる盛会、近頃になき賑はしさ、驚々入たり。八時過済て帰。
*帝国ホニル (帝国ホテル)

六月二十一日 辛未 土曜 晴。

岡村尚子より桜も、着、房州万里伯より米一俵着。

(六月二十二日、記載ナシ)

六月二十三日 癸酉 月曜 予記 夕方より堀田伯。

朝の授業済て、此夕方より堀田伯御入来にて、竹ノ合奏、四季の声、まゝの川、末の契、甘利氏打合せありたり。十時済。

(六月二十四日、記載ナシ)

六月二十五日 乙亥 水曜 晴。 予記 午下より不老会。

地久節。式辞、校長、職員、生徒、式場集る。君か代奉読、地久節の唱歌、畢而一同散集す。午下一時より鳥尾子え行、不老会初会。甘利寅雄、鳥尾、河はた子、西村氏、予、甘利始よし雄、長氏、外御客、堀田伯、尺八の人式人と也。みな名々によく演したり。

*河はた子 (河鱸子) *甘利始よし雄 (甘利娘よし雄) *名々 (銘々)

六月二十六日 丙子 木曜 晴。

朝より大久保氏え行、九(十)度。

六月二十七日 丁丑 金曜

朝より大久保氏へ行、十(十二)度。午下四時発汽車にて、李子、智子、勝子の三人連にて渡房する。

六月二十八日 戊寅 土曜 陰。

終日、揮毫ものス。此朝、原町酒井伯え白あひる一番をさし上る。夜、甘利氏来る。夕景、雨にてすく止。

*すく(直)

六月二十九日 己卯 日曜 晴。

朝より揮毫ものス。雨宮母か病気の端書着して、直に帰宅する。夜十時半過、李子一行、房州より無事帰宅する。

尺五絹本二枚、人のよのうきむら雲をはらひのけて、井上庸三、岡田徳子。鷺箋全紙に、甘利紹介。

*鷺箋(画牋)

六月三十日 庚辰 月曜 晴。

朝の教授する。

予記 伊勢二見、清水石仙、乃木夫人、かくり世にの哥、もみちはの哥。

(七月)

七月一日 辛巳 火曜 晴。

学校、本日より半日教授する。竹内氏来る。

七月二日 壬午 水曜 晴。 予記 義勇財団海防義会え。午下三時、本会事務省え集る。

午下三時より海上ヒルテグ六階へ行、会長鍋島栄子様、山内禎子様、理事長其外十四人程にて、海飛行機ノ★(示+兌) 明等ありて、後、御すもの合のものにて、先、初会の理事等済て帰。

*海上ヒルテグ(海上ビルディング) *事務省(事務所) *★(示+兌) 明(説明)

七月三日 癸未 木曜 晴。

朝、佐々木氏へ行。少し気分あしくて、直二帰。腹痛、井深氏を呼て診察を乞。一寸、時

候当りにて平臥する。

七月四日 甲申 金曜 晴。

終日、微恙にて楽寝する。

(七月五日、記載ナシ)

七月六日 丙戌 日曜 晴。

此夕、高はし弘来る、姉伯も。竹内氏、佐々木上人よりのあみた仏尊骨書いたく。
甘利氏紹介の鶯箋全紙に、天地生としいけるものみなは。

*高はし弘 (高橋弘) *鶯箋 (画牋)

七月七日 丁亥 月曜 晴。

朝の授業する。午下一時より高輪なる竹田宮へ参る。内親王様拝謁仰付られ、予、願上たる伝教大師御絵奠御詞書、御揮毫成りて拝読、御手積も御立派にあらせられ、実に此上の有かたさはなく、拝戴いたし候。右に付て、仏法の事二付長々と御咄し申上て時を移したり。此時、種々なる御かけ物賜りて、退出する。

竹田宮様え、

養蚕

一筋の糸よりの

撫子

人のよの可愛らしきハ

扇

わかもたる扇のかなめ

*絵奠 (絵伝) *手積 (手跡) *御かけ物 (御被物)

七月八日 戊子 火曜 晴。 予記 午下一時半より地明会行。

朝九時より宮中参内ス。山桃権典侍様に御目にかゝり、大原様、此度御本役擲搦つゝしの権掌待に昇進遊はされ立派に御成にて、嬉敷候。本日ハ御謁見所にて、皇后陛下下拝謁仰付られ、御機嫌奉詞申上、種々御咄し共、此ほと陛下より御下命の御色紙二付、大そう御ほめを戴、又春、下民え下されの綿入式百枚、心よく承知してくれてと、御言葉種々御咄しにて、近日日光え行幸啓のよし仰せられ、御親しく何かと御物語戴きて、何たる幸、光栄そと有かた涙にくれ候。それより退出。

*擲搦 (躑躅) *権掌待 (権掌侍) *御機嫌奉詞申上 (御機嫌奉伺申上)

七月九日 己丑 水曜 晴。

一条公爵薨去。

七月十日 庚寅 木曜 晴。
方々え中元贈答にて大困雑する。泰来る。

*大困雑(大混雑)

七月十一日 辛卯 金曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

七月十二日 壬辰 土曜 晴。
朝より中元賀客にていそかし。

(七月十三日、十四日、記載ナシ)

七月十五日 乙未 火曜

黒田清輝君、本日愈薨去せらる。

(七月十六日、記載ナシ)

七月十七日 丁酉 木曜 晴。冷氣。予記 季子女王様御十年祭、午前八時、同十時。
朝七時より閑院宮え参る。八時、御霊祭、玉串を捧げて退る。豊島岡御墓祭ニは不参。す
こし雨ふる、後止。

七月十八日 戊戌 金曜 晴。

極々好天気にて風あり、冷気を覚ゆ。午下三時より光明会始る。田中木又先生御出にて御
導師、念仏三昧修行。跡つゝきて御講話、益感に堪たり。后、のり巻、菓子にて六時過散
会。

*跡(後)

七月十九日 己亥 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

七月二十日 庚子 日曜 土用入。晴。

七月二十一日 辛丑 月曜 二郎。晴。

七月二十二日 壬寅 火曜 三郎。
朝、大久保氏へ行。

七月二十三日 癸卯 水曜 四郎。
朝、大久保氏へ行。夕景より鳥尾氏へ行て帰。

七月二十四日 甲辰 木曜 五郎。晴。

本日、脩業式執行。寄宿生、本日より帰省ス。朝、大久保齒医師へ行、全部治療済。

*脩業式（終業式）

七月二十五日 乙巳 金曜 六郎。雨なし。晴。

午下、雨、まねの様なるを、已而止。本日より礼拝式書写にかゝる。一朝一枚ツ、と果行す、法華経も共に。朝四時半、起る。竹田宮へ参る。かねて願上たる御染筆の御礼に参る。内親王様、拝謁仰付られ、人生帰趣一部献上、是に付て御咄し共申上て退出ス。

*果行（課行）

七月二十六日 丙午 土曜 晴。

早起。礼拝式書写す。

暑中見舞、廿五軒へ出ス。

七月二十七日 丁未 日曜 晴。

早起如例。

七月二十八日 戊申 月曜 晴。

早起如例。

七月二十九日 己酉 火曜 晴。

早起如例。

七月三十日 庚戌 水曜 晴。予記 明治天皇御十三年皇霊祭。

（七月三十一日、記載ナシ）

（八月）

八月一日 壬子 金曜 晴。
書写如例。

八月二日 癸丑 土曜 晴。
書写如例。

八月三日 甲寅 日曜 晴。
書写如例。

三日月、尤清し。

八月四日 乙卯 月曜 雨。

雨始めて降り給ふ。終日、木の根ニは雨至らず。夜に入て慈雨あり。生るもの草木に至る迄よみ帰る心地いたし候。

*よみ帰る (蘇る)

八月五日 丙辰 火曜 晴。

早起。課業如例。

八月六日 丁巳 水曜 雨。

早起如例。此朝、石川房子一同六人、房州え避暑に出発ス。夜十一時半比、地震、大分永かつた。

八月七日 戊午 木曜 七夕。晴。

早起。課業如例。今晚、斎藤淳氏来る。

八月八日 己未 金曜 立秋。晴。

早起。課業、例の如し。松戸町青柳智三郎娘久爾、本日より召仕として抱へる。来客、竹内氏。

八月九日 庚申 土曜 晴。

早起。課業、例の如し。来客、石山吉子、梶川氏きく子。

八月十日 辛酉 日曜 晴。

早起。課業、例の如し。竹内氏来る。

日光御用邸千種さまえ小包と文とさし出し候。

八月十一日 壬戌 月曜 晴。
早起。課業、例の如し。

八月十二日 癸亥 火曜 晴。二階百度。
早起。課業、例の如し。来客、綾小路晨子。
竹内氏きたる。

八月十三日 甲子 水曜 晴。九十度。
早起。課業、例の如し。この暑さにはとても堪ら(れ)ぬ位。是に堪るもみおやの御恩籠
なり。

*みおや(御祖)

八月十四日 乙丑 木曜 晴。九十度。
早起。課業、例の如し。藤井寛氏頼箱書附する。夜、竹内夫婦来る。月清し。

八月十五日 丙寅 金曜 晴。
早起。課業、例の如し。地震ス。朝三時過、かなり強、庭え出る。

八月十六日 丁卯 土曜 晴。
早起。課業、例の如し。此朝、由島辺え買物に行て帰。

*由島(湯島)

八月十七日 戊辰 日曜 晴。
早起。課業、例の如し。午下六時より、予、桃子と帝国ホテルに行。招待人大坂人にて、
志方信三氏。李子、ポストンにて種々世話に成たる人と云。晚餐を饗したきとて、予も同
行ス。

*ポストン(ポストン)

八月十八日 己巳 月曜 雨。
早起。課業、例の如し。此日は例の光明会ニ付、自宅の人はかりにて念仏会を勤める準備
する。志賀鉄千代、竹内氏も来りて、夕食を前にする。幕のうち、御結ひ、御にしめにて、
みな悦んで食事すまし、御念仏三昧にかゝる。右畢而、茶菓にて御讚歎はなしにて、十時
頃済、客ハ帰られたり。

*幕のうち(幕の内)

八月十九日 庚午 火曜 晴、又雨。

早起。課業、例の如し。

八月二十日 辛未 水曜 雨。大強雨。
早起。礼拝儀書上る。

八月二十一日 壬申 木曜 風。

早起。礼拝儀、桃子と教正す。大阪志方信三より御礼の書至。文部省囑託伊藤精次来る。
市外西大久保二四三。

*教正(校正)

八月二十二日 癸酉 金曜 雨。

早起。礼拝儀かな入ル。

八月二十三日 甲戌 土曜 晴。九十七(度)。

早起。礼拝儀かな入ル。石川半右衛門死去すといふ。

八月二十四日 乙亥 日曜 晴。

早起。書写ス。此夕、高橋弘、竹内氏来る。

八月二十五日 丙子 月曜 雨。大雨。

早起。書写ス。此朝、石川房子一行、房州より帰京。朝十二時、雨宮、兩國え迎に行。此一行八直二横浜へ行。桃子ハ朝、石川半右衛門え悔みに行。大雨、午後晴たり。

八月二十六日 丁丑 火曜 大雨。

早起。写経する。大強雨にて勿に表裏とも浸水する。急に冷氣増して、セルに袷の打衣をきる。

*勿に(忽に) *打衣(袷)

八月二十七日 戊寅 水曜 雨。

早起。写経する。昨日の豪雨にて東京其外地方、浸水家屋、横浜全市ハ泥海となると、可驚。書をよす、長野藤井瑞枝え、伊藤精次え、兵庫佐々木静子え、愛知三浦七右衛門え。
長野県下水内郡飯山町井上弘円ニテ藤井瑞枝、静養中。

八月二十八日 己卯 木曜 晴。

早起、例の如し。此日、職員方来る。

八月二十九日 庚辰 金曜 晴。

早起、例の如し。庭樹切り払はせる。明るくて風通しよし。折々ぬか雨ふる。

八月三十日 辛巳 土曜 晴。

早起。課業如例。

八月三十一日 壬午 日曜 晴。

早起。課業、例の如し。天長節祝日ニ付、昼御祝御膳戴く。明日、災役日ニ付、商人ハ休業、売もの一切なく、今日より仕度する。新田氏より昨年の避難人たるを記念して、ちらしすし三盆を贈らる。これを三十人二分ちて供養すしと申て、一同食す。

○十九、此夜更て明かたの夢に、三島子の家にて招待会、其盛なる舞姫のむれ、いく組となく舞樂あり。どうしてか様な人を何国より招待せられたかと、実自然界の極樂浄土の体さい也。今迄の庭より一層広く岡山をなして、其下ハ馬場の様に道ありて、此岡山にりんどうの花奇麗に咲たるを、おのれ此花を御仏に備え度と思へとも、かゝりの人に頼んと思ふて居る夢さめたり。

十九。

*災役日 (災厄日) ー *体さい (体裁) ー *りんどう (竜胆) ー *備え (供え) ー

(九月)

九月一日 癸未 月曜 晴。

朝七時より閑院宮へ参る。寛子女王殿下の御一週忌御祭典、八時御執行、参拝仕る。昨年の今日の御椿事、御息所華子様拝謁仰せ付られて、御いたましき御さん状伺上られず、涙のみなり。御茶菓いたゞきて退出す。この日の暑さたえかたく覚ゆ。午下二時半より仏前装飾して、震火災に死去したる霊位をかさりて、宅内、学校、残りの人々も打揃ひ念仏三昧従事いたし、畢而御備えものに茶菓を出す。畢、午後六時案内、久米民十郎一周年記念法事晚餐会に、上野精養軒に行。招待の来客人も多く、民十郎の先生、知己人のみと云。食済て書画帖に記念もの揮毫して帰。三日月、精養軒の窓より拝む。

花の香にひかれて来ませ霊祭り

此朝七時半より、李子ハ佐倉堀田家にて和子様一週忌年祭に参拝して、夫より房州万里家ニ行。此午後三時過に、高橋富貴子、今朝塩はらわたりの山にてりんどうの花を沢山に持参りて、今朝の夢のりんどう、如来の御手たてと、有かたしく。

例年此日を以て震火災役を忌念日として、朝食、味噌汁、つけ物、平生通り、昼食、半つき米、御結び、沢菴、梅干、晩食、昼に同じ、毎年、此儀を守るへし。二百十日役日も近年稀なる好天気、可喜々々。

*御一週忌(御一周忌) *さん状(惨状) *備えもの(供えもの) *一週忌(一周忌) *塩はらわたり(塩原辺) *りんどう(竜胆) *りんどう(竜胆) *震火災役(震火災厄) *忌念日(記念日) *役日(厄日) *

九月二日 甲申 火曜 晴。

早起。書写、例の如し。来客、津田栄子、竹内喜太郎夫婦 花子と、昨年今日、上野より避難して此方え来りたる記念会として来る。

九月三日 乙酉 水曜 晴。

早起。書写、例の如し、礼拝儀書上る。来客(以下、記述ナシ)。李子、房州より帰京、夕七時と云。雨宮迎に行、七時半、無事着。午下四時比、広島松島より信子キトクと云電報に、一同驚入たり。

*書写(書写)

九月四日 丙戌 木曜 晴。

早起。法華経にかゝる。来客、下瀬房子、小供と。松島え電報うつ。夜、返報。夕かたより雨。

*小供(子供)

九月五日 丁亥 金曜 雨。

早起。書写ス。

九月六日 戊子 土曜 雨。

早起。書写如例。来客、房州より万里すみ子さま、くわ殿と着、一泊。

九月七日 己丑 日曜 晴。

早起。如例書写す。来客、裏松千よ子。朝、大久保氏え行、歯を直してもらひたり。帰途、新田氏訪問して帰。すみさま、二泊。

九月八日 庚寅 月曜 晴朗。

早起。書写如例。朝八時、職員、生徒一同、始業式執行。晴天秋日和、一点のくもりもなく快よき空気、快々然たり。校長の演舌、次に主事、全始業式畢。

九月九日 辛卯 火曜 晴。

早起。例の如し。土神祭礼、賑々敷執行出来たり。

九月十日 壬辰 水曜 晴。 予記 朝、志賀重昂氏講演あり。

朝の課業、例の如し。志賀氏、印度地方ヒルマの処々実見談あり。大に国民の益する処多し。午餐を供にして帰られたり。土神秋祭、執行。

*ヒルマ(ヒルマ) *供にして(共にして)

九月十一日 癸巳 木曜 二百廿日。風もなくおたやかなる上天気。晴。

朝の課業、例の如し。此夕、甘利氏来る。万里小路くわとの、帰房する。竹田宮様よりの短冊十枚、書上る。広島松島靖子より信子の病状申来りて、よみつゝ涙惨然として、よみ得られず、親のかなしさ察せられたり。

*惨然(漣然)

九月十二日 甲午 金曜 雨。

朝の課業、例の如し。終日、雨甚し。夜半の月殊に清し。
大坂木津唯専寺え、相州佐藤貞子、神戸多田氏え、書をよす。

九月十三日 乙未 土曜 晴朗。

早起。課業如例。朝八時五十分より教授、十一時五十分迄。中秋明月、月よみの命様に、薄、秋くさ、御団子十五、いも、さやまめ、備える。宵の月の出清光、段々に雲かゝる、夜半ニは明らかになる。今年の月も拝みたり。

*月よみの命様(月読の命様) *備える(供える)

九月十四日 丙申 日曜 晴。

早起。書写、例の如し。三島子光明会日二付、余、李子と出門するはつの処、弘来り要談、外に来客ありて不参する。

九月十五日 丁酉 月曜 陰。

早起。書写、例の如し。朝の教授する。

九月十六日 戊戌 火曜 雨。

早起。書写、例の如し。終日、雨降通したり。夜も同しく、雨もりにて大さわきしたり。

発信 善光寺大宮様、久米民之介え。

受信 松島茂房より書至。

九月十七日 己亥 水曜 雨。

早起。書写、例の如し。午下、鳥尾氏え行。

九月十八日 庚子 木曜 晴。暑し。

早起。書写如例。朝より光明会の準備して、午下二時、会員来集、御念仏三昧、三時半、田中先生御出にて本日の御講話、毎もなから有かたき事也。点灯後、御すもし、のり巻、玉子、結びにて、全畢。本日は鳥尾子御兩人御出に候。

九月十九日 辛丑 金曜 雨。

朝、雨にて、ほとんど晴れたり。早起。書写、例の如し。

九月二十日 壬寅 土曜 晴。予記 地明会、牛込原町常楽寺、午後二時より。

早起。書写、例の如し。午下より榎木町竹内氏へ行。同氏病気も案外快方にて、先々嬉しく安神いたし、暫時にして常楽寺へ参詣する。日生師講話ありて、四時時(衍)過帰。

九月二十一日 癸卯 日曜 雨。雨ふりつゞく。

早起。書写、例の如し。雨中、川はた子より案内にて、久々鳥尾泰子、ちせ子、甘利氏も来られて、三弦合奏、九時帰。

*川はた子(河鱒子)

九月二十二日 甲辰 月曜 晴。

早起。書写、例の如し。朝八時五十分より昼迄の教授する。

九月二十三日 乙巳 火曜 晴。

早起。書写、例の如し。秋季皇霊祭二付、祖先祭執行。朝より霊前装飾進撰(神饌)物奉備(供)る。ちらしすもし拵る。来客、房州より万里栄女、一泊。

九月二十四日 丙午 水曜 晴。

早起。書写、例の如し。午下、鳥尾子へ行、夜七時半帰。

発信 佐藤貞、大宮尼、神戸多田、広島松しまえ。

*松しま(松島)

九月二十五日 丁未 木曜 晴。

早起。課業、例の如し。

九月二十六日 戊申 金曜 晴。 彼岸決願。

早起。書写、例の如し。来客、泰 英児連て、万里栄女、芳房さま。午下四時、汽車にて帰房ス、栄女のみ。予、光円寺墓参する。梶川きく、中谷初。

*彼岸決願(彼岸結願)

九月二十七日 己酉 土曜 雨。
早起。書写、例の如し。

九月二十八日 庚戌 日曜 晴。
早起。書写、例の如し。

九月二十九日 辛亥 月曜 旧九月一日。雨。
早起。書写、例の如し。

九月三十日 壬子 火曜 晴。 予記 午後五時、帝国ホテル、大村養之助、楠美代子、結婚披露会。

早起。書写、例の如し。朝十時より閑院宮参伺、宮様、御息所様拝謁、種々御咄し申上て、御昼戴て帰。楠氏結婚二付、四時、自動車にて迎來、予、李と帝国ホテルに行、始、典山の講談、狂言末広、長唄石橋、食事大饗宴、盛也。八時帰。

*帝国ホテル(帝国ホテル)

(十月)

十月一日 癸丑 水曜 雨。

早起。書写例の如し。智子さま、京都行二付、夜八時三十分発汽車にて、自動車にて李子だけ、外に男老女、停車場迄送たり。終日、雨甚し。雨宮附添人として京都迄。

十月二日 甲寅 木曜 晴。

早起。書写例の如し。來客、波多野華涯妹田中かつ。

十月三日 乙卯 金曜 晴。

早起。書写例の如し。

十月四日 丙辰 土曜 晴。

早起。書写例の如し。

十月五日 丁巳 日曜 晴、午下、雨。

早起。書写如例。李子、朝六時より埼玉県三輪村新田地蔵堂念仏会に参詣する。李子、夜八時比帰。予、朝倉、岡村氏と同行、三島邸光明会ニ参詣する。夜九時比、地震す。此時、

署の消防車二台、学校表門によせかけて門を明よと云さわき、火元たしかにしらへたるに、二階石川房子の部やに電氣のホヤに赤き絹のきれをかけて、その赤きをいたしたるに、向ふの交かん局より見て、火事と消防場えしらせたる故に、この大さわきとなりたる也。方々より見舞人来る。加茂勝子来る。

*部や(部屋) (出したる) (出したる) *交かん局(交換局)

十月六日 戊午 月曜 雨。

早起。書写、例の如し。朝の授業する、例の如し。

十月七日 己未 火曜 雨。

早起。課業、例の如し。来客、大坂美尾野順。

北海道岡村氏より大さけ五本着。

*大さけ(大鯉)

十月八日 庚申 水曜 雨。

早起。書写、例の如し。終日、大雨、雷をまじう。午下、鳥尾え行て帰。石川のり門、腹痛にて井深の診★(言+察)にてハ急に入院させとて、急に入院させたり。夜、微震あり。十日の月、殊に清光。

*診★(言+察) (診察)

十月九日 辛酉 木曜 晴。

早起。書写、例の如し。

十月十日 壬戌 金曜 晴。 予記 当日午下二時より稲荷祭招待、九段安田善三郎氏。

早起。書写、例の如し。

十月十一日 癸亥 土曜 晴。 予記 十一日午後五時、帝国ホテルえ北里善次郎、山根ミハ子、結婚披露会。

早起。書写、例の如し。午下五時より帝国ホテルにて、北里、山根、結婚披露会。自動車にて行、盛也。

十月十二日 甲子 日曜 晴。

早起。書写、例の如し。来客、高橋弘、建児と。

十月十三日 乙丑 月曜 雨。晴。

早起。書写、例の如し。此日、玉枝より大久保氏迎ひに來りて、電車、自動車にて、富ヶ

谷跡見玉枝の家に着く、大悦ひにて。此家はよく出来たり。庭もありて、玉枝もはじめてか様な家に住て、大く満足したり。夕景(よ)り謡友たり、北村、保阪、尚美、脇水、沢国、梅沢綾子、藤本竹土子、八九人也。始、玉枝野々宮、鉢木、わか(我)花かたみ、遊行柳、終、わか(我)三井寺をすめられて謡ふ。賑やか也。十時過済。予ハこゝに一泊ス。

*謡友たり(謡友たち)

十月十四日 丙寅 火曜 晴。

朝もゆるくと起て日光を拝む。心地よし。朝飯済て、鍋島侯を問ふ。栄子様ニ御目にかゝる。御新築も奇麗にて、御庭の広き事驚く計也。暫時御咄し申上て、石川たか子を問ふ。夫婦悦ひて、何かと旧談にて、正午比帰。玉枝方にて昼餐をすませて、其内、たか子、薄持参りて、又咄して、三時過いと間を造て、大久保送りくられて、農学図書館前より自動車、電車に乗て、柳町迄無事帰宅する。

*いと間(暇) *造て(告て)

十月十五日 丁卯 水曜 晴。

早起。書写、例の如し。午下、鳥尾子え行て帰。来客、原安子、久々にて来る。

十月十六日 戊辰 木曜 陰。

早起。書写、例の如し。

(十月十七日、記載ナシ)

十月十八日 庚午 土曜 晴。 予記 光明会。

早起。書写如例。午下一時より光明会、田中柰又先生御出にて、念仏三昧、次ニ御講話にて、六時済て帰る。

十月十九日 辛未 日曜 陰。

早起。書写経、例の如し。

(十月二十日、記載ナシ)

十月二十一日 癸酉 火曜 雨。 予記 大倉男招待、十月廿一日火曜午後四時、帝国劇場え。

早起。書写如例。来客、津田栄子。午下三時過、安田善三郎氏と輝子か自動車にて迎ひ来る。同乗して大倉男祝賀会え行、一階へ十番ニ着席。四時開場、主人挨拶。来賓、清浦子、

祝辞演舌、石口男、外、演舌沢山あり。畢而、余興、

神風 第一一幕畢 五時

食事 第一回 五時四十分

又神風 第二幕

浄瑠璃姫 一幕

支那劇 梅蘭芳

十一時済て帰。

十月二十二日 甲戌 水曜 雨。

早起。書写、如(衍)例の如し。午下一時より学校相談会、増田義一氏、安田善三郎氏、大東氏、泰氏、石山、予、李子と也。原氏、橋本氏、御断也。一寸御すもし、御合のもの、出す。四時散会ス。

十月二十三日 乙亥 木曜 陰。

早起。書写ス。朝、来客、角田栄子。

(十月二十四日、記載ナシ)

十月二十五日 丁丑 土曜 晴。 予記 本日午前九時、薨去のよし、閑宮様より御知らせに候。

早起。書写ス。朝九時より大久保医師え行。帰り河はた子え行。昼飯後、本郷坐え行。桜陰会の慈善也。十時過帰。

*河はた子(河鱒子)

十月二十六日 戊寅 日曜 晴。 予記 小桜会、横浜三溪園え、朝九時東京駅え。雨天順延にて十一月二日、鴻の台え行事。

早起。書写ス。朝九時より千代ヶ崎三条様え参、治子様の薨去二付、御悔み申上る。

*鴻の台(国府台)

十月二十七日 己卯 月曜 晴。 予記 \ 地明会、常楽寺え。

早起。書写す。朝より教授、昼過迄。此朝、万里小路智子さま、芳房さまと京都より無事帰着。石川範門、退院して帰。

十月二十八日 庚辰 火曜 雨。 予記 \ 愛国婦人会、隣保館え、午後。

早起。書写、例の如し。終日、雨ふりしきり也。

十月二十九日 辛巳 水曜 晴。 予記 廿九日午前十時より十一時、告別式、三条治子様。

早起。写経、例の如し。朝九時前より、予、李子、鳩山春子、自動車にて大崎三条様え告別式に玉串をさゝけて帰。此夜、斎藤仁子来。

十月三十日 壬午 木曜 晴。

早起。書経する。来客、中村善子、中村たか子、平野一枝 此度、舎弟、嫁をもらい、来月廿日結婚式に御招待を願度としての頼みに来る。

竹内氏(来)る。

十月三十一日 癸未 金曜 晴。 予記 天長節、四十五回御祝日。

早起。写経、例の如し。朝九時、校長、職員、生徒一同、式場に参集。校長、勅語拝読、天皇陛下の御近時の御模様を語る。一同万歳。跡見玉枝来る、井上妻君も。玉枝晚餐を供にして夜帰。

*供に(共に)

(十一月)

十一月一日 甲申 土曜 陰。 予記 本日、摂政殿下、金沢地方大演習御統裁、十二日御還啓。

早起。写経、例の如し。

十一月二日 乙酉 日曜 晴。

早起。写経、例の如し。午下一時より護国寺に三条治子様十日祭二付、参拝ス。帰途、鳥尾子え行て帰。

十一月三日 丙戌 月曜 晴。

早起。写経、例の如し。先帝陛下の御旨を奉して教育に従事する事にて、朝九時より大学教授 (空白) 先生を招きて講演を招きて講演を願ひ、生徒、職員一同、講堂に参集して聴聞ス、三時間。来客、泰、夕景迄。五年生修学旅行、午下八時四十分、汽車にて出発。天気最良、月清し。一同いさきよく出立ス。

十一月四日 丁亥 火曜 晴。

早起。写経、例の如し。今暁の日の出、実に晴朗。結構、実に有かたし。来客、岡田徳子、

二見ハル、津田栄子。
八日月清し。

十一月五日 戊子 水曜 晴。

早起。写経、例の如し。朝十時より上野美術学校に行、黒田清輝先生遺墨電（展）覧会を見る。泰、先在而案内してくれたり。点（ママ）四百四十二点と云、感ずるもの多し。帰途、中島徳蔵先生の怪我を見舞する。是非逢ふと云事にて、尊処にて御目にかゝる。存外御元氣にて、元場の咄しなともしられて、キヅ処追々に経過よろしく、御熱もなく、此分ならはとの事にて、大々安心々々いたし候。午下、鳥尾子え行て帰。

十一月六日 己丑 木曜 陰。

早起。写経、例の如し。李子、伊勢よりのは（端）書着、みな無事のよし、安心。

十一月七日 庚寅 金曜 晴。 予記 市外荏原郡駒沢村下馬引沢四三五、午下一時より三軒やと云。

早起。写経、例の如し。午下一時、約の如く板垣妻、自動車にて迎ひ来る。直に同乗して駒沢村二見氏に行。ハル子悦ひ迎へ而、其内、藤島氏、安田輝子も来る。庭も広く、散歩して、菊の種類沢山、室の葡萄を残し置て、柿もみな残し置たる由也。其内、素謡はしまる。熊野を謡ふ。ハル子の師匠も来りて、晚餐後、仕舞、あし（蘆）刈、放哥（下）僧、高砂切を舞ふ。素謡雲雀山を謡ふて帰。安田自動車にて帰。十一日の月よし。

十一月八日 辛卯 土曜 晴。

早起。写経、例の如し。午下一時より宮中に参内、千種典侍様に御目にかゝる。皇后陛下拝謁仰付られ、種々御物語、花蹊も久しく参らぬのいかゝやと仰せられ、此廿八日比より桃山御参拝、大阪仁徳天皇御参拝の御事とも種々拝承仕り、実に有かたさに感泣いたし候。四時、退出いたし候。来客二見氏。李子よりののは（端）書着。
発信 多田操子、太田早苗え。

十一月九日 壬辰 日曜 晴。 予記 観世別会能、午前十時より。

早起。書写、例の如し。李子一行、大元氣にて朝七時着にて帰。三日より今日迄雨なし、好天気つゞき、是も全く如来の御加護と有かたく候。観世会別会能をみる。震災後、立派に普請出来上りて広く都合よく盛会也。

十一月十日 癸巳 月曜 晴。

早起。写経、例如し。午下一時より閑院宮様え参殿、君様御喪中御機嫌伺申上て、仏法信念の御咄し長々と申上る。能々御得心の様見請られたり。四時帰。

十一月十一日 甲午 火曜 晴。
早起。写経、例の如し。

十一月十二日 乙未 水曜 予記 本日午下一時、出席。

早起。写経、例の如し。本日午後一時、早稲田大隈邸にて婦人共立育児会総会、竹田宮内親王殿下御台臨。

十一月十三日 丙申 木曜 晴。

早起。書写、例の如し。朝、さゝ(佐々)木先生え行て帰。

十一月十四日 丁酉 金曜 晴。

早起。書経、例の如し。来客、元酒井富貴。

十一月十五日 戊戌 土曜 晴。 予記 午後十二時半より新宿園、晴雨に關せず、桃園会。

早起。書写、例の如し。例刻より桃園会二行。新宿園ハ元浜野茂氏の宅地を此園としたる也。一同集会、庭苑にて写真撮影して退散。跡見光重着袴之祝二付、氷川神社参拜ス。石川範門も同祝也。

十一月十六日 己亥 日曜 晴。 予記 午後一時より松花会、青山七丁目稲葉邸にて。

早起。書写、例の如し。午下一時より芝増上寺にて徳川良子様告別式、焼香をして直ニ青山稲葉邸松花会二行、九時帰。

十一月十七日 庚子 月曜 晴。

早起。書写、例の如し。

十一月十八日 辛丑 火曜 晴。 予記 光明会。

早起。書写、例の如し。午下一時、笹本上人御台臨、久米民十郎。上人の御導師にて御講話、実に結構々々。集るもの三十人也。

十一月十九日 壬寅 水曜 晴。

早起。写経、例の如し。午下、鳥尾子え行。朝より京都中島鶴巻来る。午餐を供(共)にする。

発信 山口県藤村源兵衛え、愛知県三浦七右衛門え。

十一月二十日 癸卯 木曜 晴。 予記 午下五時半、保険協会丸ノ内有楽町、篠原小平、大島満喜子、結婚披露会。
早起。写経、例の如し。

十一月二十一日 甲辰 金曜 予記 午下五時、帝国ホテル、中村賢太郎と指田八重子の結婚披露会。

十一月二十二日 乙巳 土曜 晴。

早起。写経、例の如し。午下四時半より、予、李子と帝劇へ行。浦四三子、米国にて世話に成たる人を招待して。

伽羅先代菽 歌右衛門 政岡、梅幸 八汐、二人共感に入たり

榊原高尾 梅幸

二人道成寺 歌、梅 是も感に堪たり

十一月二十三日 丙午 日曜 晴。

早起。写経、例の如し。午下、河はた(鱸)子え行て帰。夜、雨ふる、有かたし。

○二十、明かたの夢、極楽浄土に参る。結構限りなし。其時、大炊御門師前様も此極楽に御出にて、こなたも予て仏法御悦故、願成就してこゝに御参りの人に成せられたるか、大に喜悦かきりなし。

十一月二十四日 丁未 月曜 晴。

早起。写経、例の如し。朝より教授、三時間也。

十一月二十五日 戊申 火曜 晴。 予記 皇后陛下、京都へ行啓、御風氣ニテ御延引。

早起。書写ス。

十一月二十六日 己酉 水曜 晴。

早起。写経、如例。房州より万里栄女来、一泊ス。

十一月二十七日 庚戌 木曜 晴。 予記 皇后陛下、御西下行啓。

早起。写経、例の如し。朝、佐々木氏え行て帰。来客、星野花子。

十一月二十八日 辛亥 金曜 晴。 予記 午下二時より高輪南町三十番地横川氏え。

早起。写経、例の如し。午下二時より横川氏え、棚橋總(絢)子先在、玉枝も来る。はしめ素謡、予百万、玉枝二人静、横川すみた川、あや子弱法師。晚餐を饗せられ、九時、自動車にて帰。

十一月二十九日 壬子 土曜 晴。

写経、例の如し。午下より中島徳蔵氏御見舞二行。先々日々経過よろしく、先々安心、閑談。それより宮内え筆を求めて帰。夜、竹内氏来る。

太田より檜子二箱着。太田より電報ニテ小二郎死去のよし、電報ニテ弔詞スル。

十一月三十日 癸丑 日曜 晴。夜、雨。

写経、例の如し。此夜、跡見寿子出発ス。竹内来る。此時、下女竹怪我する。岩浪稲死去のよし、驚入たり。

(十二月)

十二月一日 甲寅 月曜 晴。

早起。写経、例の如し。来客、土井早苗、□子。竹内来る。太田小二郎葬式、寿子、昨夜出発、会葬ス。

木津跡見法専より専心院三回忌志、白木綿一反、鷺田よりシヤケ一尾着。

十二月二日 乙卯 火曜 晴。

朝、写経如例。午下早々、青山岩浪稲子宅へ行、弔詞焼香して帰。

大坂府下西成郡今宮町西萩四二二、山本松之助方美尾野順より。

十二月三日 丙辰 水曜 晴。

朝の写経、例の如し、早々。千駄ヶ谷三島子え御悔みに行、御暇乞して帰。

十二月四日 丁巳 木曜 晴。 予記 本日、稲子、青山斎場にて葬儀、午下二時。

朝の写経済。

十二月五日 戊午 金曜 晴。 予記 三島和歌子刀自葬儀神式、青山祭場ニテ、午下一時。

朝の写経済。来客、寿子、森岡より帰。葬式の模様をかたる。夜八時比、帰。竹内氏きたる。

十二月六日 己未 土曜 晴。

朝の写経済。

○廿一、此朝、明かたの夢に、大なる袋、玉の飾（かざり）ある、この袋、靈性が沢山は入たるをおのれ持て居る夢也。判談（断）にくるしむ。
十八日、笹本上人に此夢の御咄しに、是は如来様の御悦にて、袋の中の靈性ハ真耳宝珠デ、今日この念仏会も他と共に念仏して、真耳宝珠となるのである、如来より御誉に預りたる結構なる御告であると仰られた。

十二月七日 庚申 日曜 雨、雪。

朝の写経済。雨後初雪、牡丹の如し。已而止。午下四時より、予、李子と自動車にて邦楽座に行。菊五郎一座にて又面白し。十一時帰。

十二月八日 辛酉 月曜 晴。

朝の写経、例の如し。朝より午後迄、教授する。勅題かゝせる、試筆画かゝせる。午下一時より財談（団）法人相談会をひらく。島田信子、松平頼子、志賀重昂、宮原氏、堀田伴子、鳥尾千勢子、土井早苗、斎藤仁子、長尾収一、大東主事、石山、晡時退散。

十二月九日 壬戌 火曜 雪。予記 午下一時半より常楽寺にて地明会。

朝の写経、例の如し。来客、星野錫、学校用にて。

発信 大木伸子え、秋元松子え。

十二月十日 癸亥 水曜 晴。

朝の写経済。午下、鳥尾子え行。

十二月十一日 甲子 木曜 晴。

朝の経写（写経）済。

月、氷の如し。満月拝む。

十二月十二日 乙丑 金曜 晴。

朝の写経済。終日、多忙。

月、鏡の如し。

十二月十三日 丙寅 土曜 晴。予記 三条御母堂五十日祭、大崎別邸ニテ、午下二時半より四時まで。御墓前祭、午前九時半。

朝の写経済。午下、大崎三条様五十日祭ニ付、玉串を捧げる。自動車にて行。はじめて氷はる。大坂美尾野え書をよす。

十二月十四日 丁卯 日曜 晴。

朝の写経済。午下、河はた(鱸)子え行。

十二月十五日 戊辰 月曜 晴。

朝の写経済。夜、甘利氏来る。

波多野華涯より、かき(牡蠣)一樽着。

十二月十六日 己巳 火曜 晴。

朝の写経済。来客、井上角五郎氏、女の力士屋静男、万里芳房伯。

十二月十七日 庚午 水曜

予記 太田小二郎二七日志、白めりんす一反。

十二月十八日 辛未 木曜 晴。 予記 光明会。

朝の写経済。午下二時より光明会、笹本上人御来臨にて御講話もあり。田中柰又先生も御出にて、此日、三島嘉根さまの御母の御名(命)日二付、大同えサンドリツチを御供養相成たり。

十二月十九日 壬申 金曜 晴。 予記 午下五時半、華族会館にて、日本弘道会長徳川達孝伯、出席。

朝の経写(写経)済。五時半より日本弘道会相談会二行而帰。

十二月二十日 癸酉 土曜 晴。 予記 岩浪稲子三七日くり(繰)上法会、午前十時、千駄ヶ谷仙寿院ニテ、近衛歩兵第四聯隊裏。

朝の写経済。来客、斎藤仁子、熊谷より来り、李子同道にて岩浪稲子の法会ニ参而帰る。仁子と昼飯を共にす。

十二月二十一日 甲戌 日曜 晴。 予記 午下一時より統一団協議会。

朝の写経済。午下早々、閑院宮様え御歳暮申上る。両殿下拝謁。それより有馬氏邸え行、貞子様へ謁して種々御咄し申上而帰。

十二月二十二日 乙亥 月曜 晴。 予記 午下六時、帝国ホニ(テ)ルにて、安本明治郎、星野つる子結婚披露会。

朝の写経済。后六時より、予、李子と自動車にて帝国ホテルに行、明治郎、鶴子結婚披露会二行て帰。

十二月二十三日 丙子 火曜 晴。

朝の写経済。来客、太田二郎、森岡より来る。

十二月二十四日 丁丑 水曜 晴。

朝の写経済。朝九時より終業式執行。来客、長谷川千賀子と晚餐を供(共)にす、小早川式子。

十二月二十五日 戊寅 木曜 晴。

朝の写経済。来客、跡見玉枝、万里小路すみ子 奈良より帰。
願泉寺より奈良漬着。

十二月二十六日 己卯 金曜 晴。

朝の写経済。

十二月二十七日 庚辰 土曜 晴。

朝の写経済。夕景より雨になる。夜、よほとふる。

十二月二十八日 辛巳 日曜 雨。

朝の写経止む。終日、小さめふる。拂(掃)除する。年始端書百枚出ス。

十二月二十九日 壬午 月曜 晴。

朝より忙殺。万里すみ子、午下一時五十分汽車にて帰房する。

発信 三条公え、岡山波多の(野)え、松島、小包手紙、朝鮮今村え、神代え。

十二月三十日 癸未 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月三十一日 甲申 水曜 晴。

本年の掃除仕舞、内は予をはしめ一人の病者もなく、暮の祝義(儀)等賑々しく済。

創業記念日 一月八日

誕生記念日 四月九日

八月八日

震火災日 九月一日

十三年
 二月七日 車 佐々木氏
 湯島眼鏡やえ
 同 十一日 中徳氏 往復
 麻布南町 往復
 十二日 自動車

六月一日 拾銭 菊
 五日 老円也 浜野え
 七日 三拾五銭 帳面 一冊
 八日 五拾銭 三島子 御冥加
 十二日 廿六銭 子供え おもちや
 十四日 五拾銭 らうそく(蠟燭)
 廿七日 四円四十五銭 タヲル二打(ダース)
 同 五十銭 町会六月分会費
 廿七日 八拾五銭 日々新聞六月分
 同 老円五拾銭 美術協会十二月迄半季分済
 廿七日 五十銭 婦女新聞六月分
 廿五日 拾円也 甘利氏会費
 三十日 老円八拾四銭也 吉野 せんだく
 同 老円也 すし二人前

惣計
 老円也 大久保よりの車代
 老円五拾銭 同 車代
 四拾九円八拾銭 車代
 七拾五円六拾五銭也

六月一日より車
 一日 報知階上行
 四日 大久保齒医師え 往
 同日 鳥尾氏え 往復
 七日 大久保氏行
 八日 自動車 三島子行
 九日 大久保氏行 往復
 十一日 鳥尾氏 上下

十三日	大久保氏	上下
	松花会、安田氏行	上
十五日	大久保、新田行	上下
十九日	大久保氏行	上下
廿日	自動車	上下、堀田家より福田えよる
廿二日	帝国ホテル	上下
廿五日	大久保氏行	上下
廿六日	鳥尾氏行	上下
廿七日	大久保氏行	上下
廿七日	大久保氏行	上下
合計	四拾九円八十錢也	
七月一日より		
二日	海上ヒルテイ、グ	上下
七日	竹田宮え	上下
八日	宮中え	上下
十七日	閑院宮え	上下
八月乗もの		
十六日	由(湯)島辺え行	
十七日	自動車	
九月一日より		
一日	朝、閑院宮え	上下
同日	上野精養軒	上下
七日	大久保、新田え	上下
十七日	鳥尾氏え	上下
十八日	佐々木氏え	上下
廿日	竹内氏、常楽寺行	上下
廿一日	川はた(鱧)氏行	上
廿四日	鳥尾氏	上下
三十日	閑院様	上下

(九月分重出)

九月一日

同

閑院宮え

上野精養軒え

久米氏招待

大久保氏

鳥尾子

竹内氏と常楽寺え

川はた(河鱧)氏え 上のみ

鳥尾子え

閑院宮え

上下

上下

上下

上下

上下

上下

上下

十月五日

八日

十日

十一日

十五日

廿五日

廿六日

廿九日

水道橋迄

鳥尾子え

安田善三郎氏

北里氏

鳥尾子

大隈会館行

齒医師より河はた(河鱧)子、本郷坐

千世か崎三条様

同

—

上下

上下

上下

上下

上下

上下

上下

十一月

二日

五日

八日

九日

十日

十二日

十五日

十六日

二十日

廿一日

廿二日

廿三日

護国寺、帰途鳥尾子え 上下

美術学校より中島え行 上下

御所え 上下

観世会え 上下

閑院宮え 上下

早稲田邸え 上下

新宿園え 上下

芝増上寺稲葉邸 上下

保険協会え 上下

国ほてる(ホテル)え 上下

帝劇え 上下

河はた(河鱧)子え 上下

十二月分

廿九日

中島氏、神田淡路町え

二日

青山岩浪え

三日

自動車

千駄ヶ谷三島子え

七日

自動車

邦楽座え

十日

自動車

鳥尾子え

十三日

自動車

大崎三条

十四日

自動車

河はた(鱧)子え 上り

十八日

自動車

佐々木氏え

十九日

自動車

華族会館え

廿一日

自動車

閑宮様と有馬伯え

廿二日

自動車

帝国ホテルえ